

小中だけでは終わらない 勝高生の「勝山人学習」



かっちゃん創生プランを市長に提案

市内にある県立勝山高校では、平成30年度から、生徒に地元のことを知ってもらう総合学習「勝山人」をスタートさせました。この学習は高校の3年間を通じて行われ、1年次は地域について学び、2年次は勝山市と他地域を比較、3年次に地域課題の解決や活性化策を「かっちゃん創生プラン」として発表します。

この学習には勝山市も協力し、職員が生徒の質問に答えたり、生徒がまとめたプランにアドバイスなどを行っています。

校内の発表で優秀だったプランは、磨きをかけて市長に直接提案されます。



中学生が施策提案



中学生のまちづくりへの参画を市長に直接提案する生徒

平成29年度から、中学生と市長と語る会を開催。各校生徒会が生徒の意見をまとめ、市長に直接まちづくりの施策を提案します。

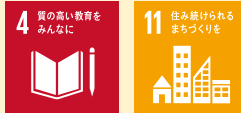


NIEで活動発信



新聞記事からフードロスについて考える村岡小児童

今年度から、教育に新聞を活用するNIEの取組を全小中学校が開始。新聞を通じて地域や社会について学び活動を発信します。



成器南小学校



雪室を見学

校区内の食について調査。おいしい食材を生産する生産者に話を聞いたり、食材を貯蔵している雪室を見学したりしました。



成器西小学校



浄土寺川の水質調査

校区を流れる浄土寺川で、ホタルが多く飛び交う理由を調べるために、環境指標生物をもとに水質検査にチャレンジしました。



村岡小学校



斜面の下草刈り

地域の環境団体と協力し、今年もミチノクフクジュソウ保全活動に参加。下草刈りや保護を呼び掛ける看板を作成しました。



三室小学校



三室川の水生物調査

校区を流れる三室川の水生物調査を実施し、昨年の結果と比較。継続調査で新発見や疑問が生まれてくることに期待しています。



勝山市は全国に43ある日本ジオパークの一つです。ジオパーク活動の3つの柱は①保護・保全②教育・研究③持続可能な開発で、ESDとの親和性が高く、各校のESDにはジオパーク活動が取り入れられています。ESDにおいて、ジオパークが果たせる役割は大きいのです。大地の活動を理解し、その上に育まれた生態系、さらにはそれらを利用した歴史・文化・産業との関係を理解することは、持続可能な社会、という概念を理解するためにとても大切です。



町 澄秋 (市学芸員)

地球科学の専門家として、各小中学校でジオパーク学習などの講師も務める町澄秋学芸員に、ESDとジオパークの関係をお聞きしました。

地球科学の専門家として、各小中学校でジオパーク学習などの講師も務める町澄秋学芸員に、ESDとジオパークの関係をお聞きしました。



恐竜化石発掘現場を見学する成器西小児童

活動をジオパークとして取り組んでいます。このことを通して、自分たちが暮らす勝山への理解も深まり、郷土愛の醸成にもつながるでしょう。また、地球の歴史を扱うことで、時間スケールの理解にもつながります。気候変動や自然災害は、人間の時間スケールだけでは捉えきれません。天災は忘れた頃にやってくる」という言葉もそれを物語っています。気候変動も人間が意識をしない間に少しずつ変化してきたために、目を向けづらかった側面もあります。持続可能な世界を目指すには、長い時間スケールで世界を見ることが大切なのです。ジオパークだからと言って、地質や地形の学習をしているわけではありませんが、このような活動を通して、少しずつ意識変えていくことで、将来を担う「地球に寄り添って生きられる人」を育むことに繋がればと考えています。

野向小学校



特産のエゴマを学習

野向町でエゴマづくりが盛んな理由を地域住民に話を聞き調査。自分たちがエゴマづくりに対して何ができるかを考えました。



荒土小学校



WEB会議で交流

台湾の小学校と交流し、アートマイルプロジェクトに挑戦。新型コロナウイルス感染症について調べ、共同で壁画を制作します。



鹿谷小学校



昔の道具で田植え

生産組合の方に教わりながら、昔ながらの道具の使い方や苗の植え方を教わり田植えに挑戦。9月に無事収穫できました。



北郷小学校



畷見川の水生物調査

校区に流れる畷見川を調査。そこに生息する動植物が生きやすい環境について考え、川の環境保全活動を行っていきます。

